

第2章 「チョコボラ・プロジェクト」事業の取組

第1節 山本公民館チョコボラ・プロジェクト

1 地域・公民館の現状

山本公民館のある三種町は、平成18年3月に琴丘町・山本町・八竜町が合併して誕生した町である。町内には、旧町ごとに1館ずつ合計3つの公民館がある。三種町でも、公民館の職員は年々削減されており、山本公民館では最大時5人いた職員が、現在では館長1名(生涯学習課長兼任、通常は琴丘総合支所の教育委員会に勤務)と正職員1名、臨時職員1名の構成となっている。

2 第1回山本公民館チョコボラ・プロジェクト協議会

8月上旬より、協議会の立ち上げに向け三種町教育委員会と準備を始めたが、その際生涯学習課長から、山本公民館は比較的多くの団体・サークルに利用されているもののそれぞれの横のつながりが弱いという話があった。そこで、今は産業文化祭・町民祭に統合されてしまった「公民館まつり」を復活させることにより、団体同士の交流を深め公民館の賑わいを取り戻すきっかけにすることを協議会に提案することとした。

(1) 概 要

- ①期 日 平成23年9月7日(水) 午後3時から午後4時30分
- ②会 場 山本公民館 第3講座室
- ③出席者 委員8名(内、生涯学習奨励員2名)
公民館利用団体代表3名 地元団体代表2名 地元小学校長1名
三種町教育委員会2名(生涯学習課長、公民館係長)
事務局4名
北教育事務所山本出張所1名(社会教育主事)
県生涯学習センター3名(所長、主任社会教育主事、社会教育主事)

(2) 協議内容

- ①事業の概要について・・・生涯学習センターからチョコボラ・プロジェクト全体の説明
- ②公民館の現状について・・・委員から
 - ・非常に使いやすく、サークル・団体が頻繁に活用している。
 - ・主催事業は少ないが、サークル組織のきっかけになっている。
- ③具体的な事業の取組について
 - ・三種町生涯学習課長から、“公民館まつり”(仮称)のようなものを開催し、各サークル・団体の交流を促進し、公民館に活気を取り戻したいと提案する。
 - ・参加者は、全員賛成
 - ・町民文化祭(10月末)終了後から準備を進め、1月28日(土)・29日(日)の2日間の日程で開催する。
 - ・各利用サークル・団体の代表者で実行委員会を組織し、できる限り自分たちの手での開催を目指すことを決定する。

3 「公民館まつり」実現に向けて

協議会の決定を受け、普段山本公民館を利用している29の団体・サークルの代表と婦人会、読書ボランティア代表の合計31人に連絡を取り「公民館まつり」実現に向けて話し合いを続けた。なお、委員会に参加できない代表もいるため、毎回の議事録を作成し、次の会議案内とともに郵送し、共通理解を図るよう努めた。

(1) サークル・団体代表者打ち合わせ(第1回山本公民館まつり実行委員会)

①概 要

- 期 日 平成23年11月8日(火) 午後2時から午後3時30分
- 会 場 山本公民館 第1講座室
- 出席者 各サークル・団体代表者 19名 三種町教育委員会 2名
生涯学習センター 1名

②会議内容

- チョコボラ・プロジェクト事業について(生涯学習センターから)
 - ・チョコボラ・プロジェクト全体の説明
- 山本公民館チョコボラ・プロジェクトについて(三種町生涯学習課長から)
 - ・公民館まつりのようなものを開催して、活気を取り戻したい。
 - ・これを機会に、サークル・団体同士の横のつながり、小学生などとの交流をはかりたい。
 - ・期日は、1月28日(土)～29日(日)の2日間とし、29日にステージ発表を行いたい。
- 決定事項
 - ・「山本公民館まつり」の実現に向け協力すること。
 - ・発表には、多くのサークル・団体が短時間でも参加するようにする。
 - ・展示も、新しいものを作らなくてよいので、あるものになるべく多くのサークル・団体が参加する。
 - ・“食”のコーナーも実施したい。
 - ・あまり無理をせず、できることをやって今後につなげていきたい。
- 次回の打ち合わせに向けて
 - ・各サークル・団体の会員の意見を集約する。
 - ・発表・展示以外に何かできることがあるか考える。・・・たとえば、子どもとの交流や体験コーナーなど
 - ・「公民館まつり」のサブテーマがあった方がよいのではないかな。
 - ・森岳小の学習発表会で行われた森岳歌舞伎の再演をお願いできないかな。
 - ・発表部門、展示部門、“食”部門等の具体的な内容や役割分担を調整する。

(2) 第2回山本公民館まつり実行委員会

①概 要

- 日 時 平成23年11月29日(火) 午後2時から午後3時30分
- 会 場 山本公民館 第1講座室
- 出席者 各サークル・団体代表者 22名 三種町教育委員会 2名
北教育事務所山本出張所 1名 生涯学習センター 1名

②会議内容

○参加サークル・団体の確認

・発表 17組(18団体) 展示 11団体 調理 3団体 その他(読み聞かせ)1団体

○サブテーマ “みんなが元気！心ふれあう公民館”

○子どもとの交流、参加体験

- ・森岳歌舞伎(森岳小3年生が学習発表会での発表を再演)
- ・大正琴演奏(森岳小4年生)
- ・地元保育園児の作品展示
- ・フラダンスの体験教室

○部門別打ち合わせ

- ・発表部門…発表時間・順序・使用機材等の確認
- ・展示部門…展示場所の確認
- ・調理部門…うどん200食サービス、準備方法・役割分担等

○その他

- ・確認事項 なるべく手作りで…無理をしない、できる範囲で
お金をかけない
できることは自分たちで
- ・広報等について…町広報にチラシを入れる。(山本地区全戸配布)

(3)第3回山本公民館まつり実行委員会

①概 要

- 日 時 平成24年1月17日(火) 午後2時から午後3時30分
- 会 場 山本公民館 第1講座室
- 出席者 各サークル・団体代表者 25名 三種町教育委員会 2名
北教育事務所山本出張所 1名 生涯学習センター 1名

②会議内容

- 当日の流れの確認
- 公民館まつり終了後、次年度に向けての反省会を行いたい。
- 部門別打ち合わせ
 - ・発表部門…時間・順序・使用機材・動きなどの最終確認
 - ・展示部門…パネルの使用数・搬入日等確認
 - ・調理部門…役割分担、準備の確認

4 「山本公民館まつり」概要

このような準備を経て、「山本公民館まつり」は予定通り、1月28日(土)・29日(日)の2日間の日程で開催された。

28日は展示のみで来館者は100人程度であったが、29日は500人を越える来館者があり、公民館は活気にあふれていた。

(1)ステージ発表

次の日程で、17団体によるステージ発表が行われた。

時間	項 目	演 目 等
10:00	開会行事	・三種町教育委員会教育長あいさつ
10:15	大正琴講座	森岳小 1 上を向いて歩こう 2 手のひらを太陽に 琴修会 1 二人でお酒を 2 夜来香〔イエライシャン〕
10:35	詩吟	1 宝船 2 富士山 3 勧学〔カンガク〕
10:45	童謡・唱歌	1 靴が鳴る 2 雪 3 夕焼小焼
11:00	森岳歌舞伎(森岳小3年生)	義経千本桜
11:20	なかよし大学①	おとうさん
11:35	ハーモニカクラブ	1 ふるさと 2 早春賦〔ソウシュンプ〕 3 思い出 4 知床旅情 5 上を向いて歩こう 6 幸せなら手をたたこう
11:45	第2睦会踊り①	花笠音頭
11:55	コールやまもと	1 あいや節幻想曲 2 あの鐘を鳴らすのはあなた
12:10	謡曲	竹生島〔チクブジマ〕
12:20	3B体操①伊藤教室中嶋フレンドリー サークル	1 春空 2 まつり
12:30	新田おどり	1 男鹿半島 2 花街一代
12:40	なかよし大学②	紬の女〔ツムギノヒト〕
12:50	中嶋童謡を楽しむ会	1 星の界〔ホシノヨ〕 2 証城寺の狸ばやし
13:00	フラダンス プルメリアの会①	バリバリの浜辺で
13:10	太極拳	二十四式太極拳(風の谷のナウシカ)
13:20	健康ストレッチ講座	錬功十八法・前段〔レンコウジュウハチホウ〕
13:40	3B体操② 伊藤教室笑美サークル	1 ポーカーフェイス 2 素敵なランデブー
13:50	フラダンス プルメリアの会②	ウルパラクア
14:00	踊りでリフレッシュ	白鷺の城
14:10	第2睦会踊り②	ごきげんソング
14:20	フラダンス プルメリアの会③	1 プア・マナ 2 月の夜は(体験コーナー)
15:00	閉会行事	・県生涯学習センター所長あいさつ ・三種町教育委員会生涯学習課長あいさつ

(2) 展示

次の12団体が、講堂後ろ側、廊下等で作品の展示を行った。

- ・森岳、金岡、下岩川保育園園児の皆さん
- ・山本吟社
- ・早蕨短歌会
- ・やきもの同好会
- ・水墨画講座
- ・実用書道講座
- ・押し絵
- ・篆刻講座
- ・パッチワーク同好会
- ・健康マージャン同好会
- ・山本写真クラブ
- ・山本絵画愛好者

(3) 調理

うどん200食の無料サービスの他、第1講座室を休憩コーナーとして、お茶・コーヒーや、参加者が持ち寄った漬け物等のサービスを行った。

(4) 読み聞かせ

読み聞かせボランティアの皆さんが8組に分かれ、児童用図書館で紙芝居と絵本の読み聞かせを行った。



森岳歌舞伎（森岳小3年生）

森岳小学校3年生が、学習発表会で発表した「森岳歌舞伎」を再演した。予想以上のできばえに、集まった観客は感激し拍手を送っていた。また、森岳小学校4年生が必修クラブで習った大正琴を発表する場面もあり、普段少ない地域住民と小学生の交流が生まれ、場内はとても和やかな笑顔にあふれた。協議会委員でもある森岳小学校の校長先生は「子どもにとってもよい機会であった。今後も継続していきたい」と話していた。

5 第2回山本公民館チョコボラ・プロジェクト協議会

(兼)第4回山本公民館まつり実行委員会

第3回実行委員会で、委員から次年度に向けて反省会を開きたいという意見があり、反省会を第4回実行委員会とし、第2回のチョコボラ・プロジェクト協議会と合わせて行うこととした。

(1) 概要

- ①期 日 平成24年2月7日(火) 午後2時から午後3時30分
- ②会 場 山本公民館 第1講座室
- ③出席者 協議会委員8名(内、利用団体代表・地元団体代表の5名は実行委員兼任)
公民館利用団体代表3名 地元団体代表2名 地元小学校長1名
三種町教育委員会2名(生涯学習課長、公民館係長)
山本公民館まつり実行委員会委員8名
事務局4名
北教育事務所山本出張所1名(社会教育主事)
県生涯学習センター3名(所長、主任社会教育主事、社会教育主事)

(2) 協議内容

①事業報告・・・生涯学習センターから「公民館まつり」開催までの経緯を報告。

②事業の反省・・・委員から

- ・長年公民館に通っているが、こんなに多くの人が講堂に入ったことはなかった。また、堅苦しくなく集まった人がみな笑顔で楽しかった。
- ・小学生が参加してくれたので、見学者が増え雰囲気も和やかになった。
- ・身近な人に発表を見てもらい声をかけられうれしかった。
- ・食堂で、うどんやお茶・コーヒーをサービスしたおかげで、いろいろな人と交流することができた。
- ・今まで無かった新しい交流があった。サークルへの新規加入希望者もいた。

(改善すべき点)

- ・駐車場が狭く帰ってしまった人がいたので残念だった。
- ・食堂がとても忙しかった。人数を増やす工夫が必要。
- ・ステージ発表の際、発表者が活動紹介や演目紹介をした方がよいのではないかと。
- ・寒い時期だったので、開催時期を考える必要がある。

(公民館職員から)

- ・館内の飾り付けなど大変だったが、来館した人に声をかけるとみな手伝ってくれた。みんながボランティアの気持ちを持ってくれ、楽しく準備できた。

③今後の展望

- ・公民館から、これを機会に利用団体の連絡協議会(仮称)を作って団体間の連携を深め、年度初めに公民館まつりの開催も含めて年間計画を立てたいと提案があった。

→参加者から賛成の声があり、新年度はじめに開催することを決定する。

6 事業を振り返って

今回のプロジェクトを実施するにあたってとても驚かされたのは、実行委員の皆さんのやる気であった。事前準備の段階では、「公民館まつり」のステージ発表は2、3団体、展示も同程度と考えていた。ところが、実行委員会に提案すると、ほとんどの団体が発表・展示を希望し、出品するものが無いサークルは、趣味を展示したり調理の手伝いをしたりと、何らかの形で参加したいと答えてくれた。また、館内の飾り付けなども、職員が声をかけ、ボランティアの皆さんの協力できあがっていた。

このように、皆さんが意欲的・積極的だったのは、山本公民館が以前から盛んに団体・サークル活動をしてきたという背景もあるが、それ以上に、普段から職員と利用者が良好な関係を築けていたことにもあると思う。このように活動に意欲的な利用者は、山本公民館だけではなくどこの公民館にもいるはずである。公民館の職員が、そのような人を見つけ出し、上手に(内容、タイミングとも)声をかけ、目標を提示することによって、初めて新しい「何か」ができるのではないだろうか。そのためにも、普段から公民館と利用者との人間関係の形成が重要であると感じた。

今回の「山本公民館まつり」では、見学にきた人たちも和やかな笑顔であったが、それ以上に準備にあたった方々も満面の笑顔で活動していたのが印象的であった。今回の活動の達成感が、今後の山本公民館・地域の活性化につながるものと期待している。

第2節 北秋田市チョコボラ・プロジェクト

1 地域・公民館の現状

北秋田市では、平成17年の市町村合併後に公民館職員が減少し、市職員の広域異動等に伴い、公民館に地元出身者が少なくなった。そのため公民館と地域との繋がりが弱くなりつつあるのではないかとの声が聞こえる。

北秋田市では、平成23年度から学校支援ボランティア制度「おらほの学校応援隊！」に取り組んでおり、学校支援地域本部事業のコーディネートを公民館が担うシステムとなっている。また市内4高校が今年度統合し、中央公民館の近くに「秋田北鷹高等学校」が誕生した。

2 第1回北秋田市チョコボラ・プロジェクト協議会

協議会の立ち上げに向けた生涯学習課との事前協議の際、中央公民館は「知の循環型社会構築」に向けた事業を実施しているものの、他の公民館では職員数が少ないこともあり新規事業に向けて取り組むことは難しいという課題や、新設された秋田北鷹高等学校の生徒を公民館事業に活用していきたいという提案が出された。

(1) 概 要

- ①期 日 平成23年10月13日(木) 午後1時30分から午後3時
- ②会 場 北秋田市中央公民館
- ③出席者 北秋田市公民館運営審議委員会会長
一般ボランティアの代表2名(2名とも生涯学習奨励員)
秋田北鷹高等学校校長 北秋田市教育委員会11名
北教育事務所 1名 生涯学習センター 3名

(2) 協議内容

- チョコボラ・プロジェクト事業について
 - ・生涯学習センターからチョコボラ・プロジェクト全体の説明
- 北秋田市の公民館の現状について
 - ・各委員から公民館(中央、合川、森吉、阿仁)の現状説明
- 具体的な事業への取り組みについて
 - ・社会の要請に対応した事業を各地域で実施していくこと
 - ・公民館事業に高校生を活用していくこと

3 事業実施

(1) 北秋田市チョコボラ・プロジェクト第1弾

〈「ふるさとの未来・再考！フォーラム」～内陸線の未来を見つめて～〉

① 概 要

- 日 時 平成23年11月26日(土) 午前9時30分から午後4時
- 会 場 北秋田市交流センター 講堂
- 参加者 大阿仁小学校の6年生9名 阿仁中学校の2年生21名

秋田北鷹高校生徒会の生徒6人 秋田大学大学院の学生1名
 秋田内陸縦貫鉄道株式会社の社長及び社員
 北秋田市長 秋田大学北秋田分校長
 北秋田市教育委員会7名 北教育事務所1名
 一般参加者 150名 生涯学習センター 3名

②内 容

- ・大阿仁小学校の6年生9名が、「走れ！内陸線 いつまでも」のテーマで内陸線の歴史や乗車率を上げるためのアイデアを発表
- ・阿仁中学校2年生21名が、「アド街ック天国 阿仁」と題して阿仁地域の観光ポイントについて自分たちの視点からの発表
- ・秋田北鷹高校生徒会の生徒6名が、北鷹高校生として内陸線存続のために何ができるかという思いから始めたトレイン・ミーティングについて「車窓から見える内陸線の未来」と題して発表
- ・鷹巣出身の秋田大学の大学院生が、「秋田内陸線を日本のモデルに」のテーマで研究発表

地域の小学生・中学生・高校生や住民に大学院生も巻き込んだ、地域課題解決に向けた「知の循環型社会の構築」を図ったプロジェクトであった。



(大阿仁小学校の学習発表)



(阿仁中学校の学習発表)



(秋田北鷹高校の研究発表)



(秋田大学大学院生の研究発表)

(2) 北秋田市チョコボラ・プロジェクト第2弾

〈生涯学習フェスタ まなぼう・あそぼう・つたえよう〉

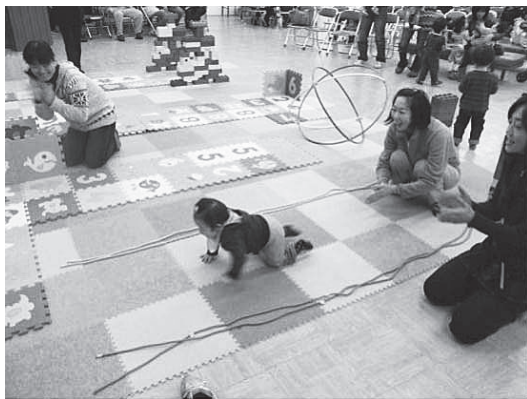
①概 要

- 日 時 平成23年11月27日(日)午前10時から午後4時
- 会 場 北秋田市中心公民館
- 参加者 北秋田市一般ボランティア他地域住民 250名
北秋田市教育委員会 5名 生涯学習センター 1名

②内 容

- ・公民館の講座受講者が中心となり、日頃の生涯学習の成果を展示とステージで発表
- ・展示・発表ブースに加えて、チョコボラ紹介コーナーの設置

地域住民が一体となって「知の循環型社会を目指そう」とする姿勢が見られた。大人から子どもまで楽しめる企画で、特に子育て中の父親が多く参加していた。



(ちびっこハイハイ競争)



(手作りキラタンポ)

(3) 北秋田市チョコボラ・プロジェクト第3弾

〈12月キャンドル作り〉

①概 要

- 期 間 平成23年12月5日(月)から12月17日(土)
- 会 場 北秋田市中心公民館
- 参加者 北秋田市一般ボランティアと高校生ボランティア延べ 110名

②内 容

- ・北鷹高校の生徒会が呼びかけたことによる、放課後の時間を利用したキャンドル作りのボランティア活動実施

この取組は、市内の寺院などから、使い古しや不用なろうソクを無償で提供してもらうことで、地域を明るくする企画に役立てることをねらいとしたもの。そしてこの取組により高校生が中央公民館に多数足を運ぶようになった。

(4) 北秋田市チョコボラ・プロジェクト第4弾

〈手づくりホッとクリスマス〉

①概 要

- 日 時 平成23年12月17日(土)
- 会 場 北秋田市中心公民館
- 参加者 北秋田市一般ボランティア、高校生ボランティア、地元の小学生とその保護者 50名
北秋田市教育委員会 5名

②内 容

- ・小学生のお菓子作りの間に、北鷹高校生が前日から会場に製作していた大きなツリーの横にキャンドル300個を設置
- ・高校生のバンドや、浜辺の歌音楽館少年少女合唱団による賛美歌の発表

最後に参加者全員で、約2メートル四方の火文字の「絆」を囲むことで、絆の大切さを実感していた。

(5) 北秋田市チョコボラ・プロジェクト第5弾

〈「高校生に学ぶ-地域・元気力・UP！研修会」～地域の元気を公民館から！～〉

①概 要

- 日 時 平成24年1月22日(日)午前10時20分から午後2時40分
- 会 場 北秋田市交流センター
- 参加者 能代北高校書道部 12名 秋田北鷹高校書道部 7名
十和田高校家庭クラブ 3名
北秋田市一般ボランティア他地域住民 (午前の部 120名 午後の部 70名)
北秋田市教育委員会 7名 生涯学習センター 2名

②内 容

高校生のボランティア活動を通して、地域の生涯学習・社会教育の核となる「公民館」の活性化を図った。加えて地域人材の育成により、地域の教育力強化と知の循環型社会の構築を目指す一環として実施された。

(午前の部)

- ・能代北高校書道部書道パフォーマンス『Rising Sun - 日進月歩』の発表
- ・秋田北鷹高校書道部書道パフォーマンス『東北&秋田を元気に！！』の発表
- ・十和田高校家庭クラブ生徒実践発表は『地域と共生する学校づくりを目指して～エコ活動・地域活動を体験して～』の題で、被災地でのボランティア活動やエコ活動の取組についての発表

午前の部の感想として、「高校生の若い力に刺激を受けた」「高校生の力でこれだけの活動ができることに感動した」等の声が寄せられた。

(午後の部)

- ・弘前大学生涯学習教育研究センターの深作拓郎氏の演習で、『高校生の力で地域も公民館も元気モリモリ - 高校生と公民館によるコラボの可能性』をテーマに参加者が車座となって意見交換

・深作先生は、「学びの三層構造で、第一が知識の獲得で、第二が獲得した知識を基に行動すること、第三が行動しながら関係を変えていく擦り合わせが大切である」ということを強調した。

この研修会では、15歳の高校生から80代の方まで幅広い年代を対象に実施できたのが一つの成果であった。北秋田市では、高校生のボランティアが公民館で様々な活動に取り組んでおり、今後、その高校生がどのように地域の力となるかに期待が寄せられている。



(能代北高の書道パフォーマンス)



(北鷹高校の書道パフォーマンス)

4 事業を振り返って

諸般の事情により事業の開始が遅れ、北秋田市教育委員会の既存事業との共催の形で進めていくこととなった。

北秋田市チョコボラ・プロジェクトでは、第1回協議会で話し合われた公民館事業に高校生を活用していくという、当初の目的を概ね達成できたのではないかと思います。中でも12月に行ったプロジェクト第3弾のキャンドル作りでは、北鷹高校生徒会の呼びかけにより、放課後の時間を利用して高校生がキャンドル作りのボランティア活動に取り組んだ。この取り組みでは、北秋田市の一般ボランティアと高校生ボランティアの延べ110名が参加した。

高校生を公民館等の地域活動に巻き込むことは難しいと思われたが、実際に実施してみるとこのような成果を上げることができた。チョコボラ・プロジェクトを通じて高校生の意欲の高さにはとても驚かされた。また、その活動を支える地元の人々の暖かいまなざしを感じた。これをモデルに他の地域でも公民館事業に高校生を活用していくことができるのではないだろうか。

第3節 由利本荘市チョコボラ・プロジェクト

1 地域・公民館の現状

平成17年3月に1市7町により合併した由利本荘市は、南北65km、東西32km、総面積は1,209km²と県内一の面積を有し、天候も沿岸部と内陸部では大きく異なる。教育委員会生涯学習課が市内の生涯学習・社会教育を主管し、第2次生涯学習推進・社会教育中期計画(平成22～26年度)に基づいて生涯学習の振興に向けた各種事業が展開されている。また、旧本荘市を除く旧7町全ての公民館が教育学習課と併設されており、学校教育と社会教育両面の業務に当たっている。旧本荘市内の公民館は7地区に設置され、以前から各公民館の若手主事らが集まって公民館主事会議を組織し、毎月1回程度自主研修に励んできた。ただ、最近では以前ほどの活気が見られないことや、研修内容の充実を求める声も上がっていた。

2 第1回由利本荘市チョコボラ・プロジェクト協議会

生涯学習課との事前協議により、最近やや停滞ぎみの公民館主事会議の活性化に主眼をおくことが確認された。このため、協議会委員は公民館長等ではなく、本荘地区の公民館主事全員(8人)を委員として委嘱した。また、本荘地区の中心となる本荘公民館の館長、公民館主事会議の広がりを見据えて西目と矢島の公民館主事、さらに地域の教育力強化に視点を当てて小友小学校長、地域住民2名と市生涯学習課3名、計17名という構成で協議会を立ち上げることになった。

(1) 概 要

- ①日 時 平成23年9月5日(月) 午後1時30分から午後4時
- ②会 場 由利本荘市小友公民館 和室
- ③出席者 由利本荘市教育委員会生涯学習課長(協議会長) 生涯学習課1名 本荘公民館長
本荘地区公民館主事8名 西目・矢島公民館主事各1名 小友小学校長
中央教育事務所由利出張所社会教育主事 県生涯学習センター(所長他2名)

(2) 協議内容

- ①事業の概要説明
- ②公民館や地域の現状について…各委員より
 - ・公民館事業に対する参加者の固定化や若年層へのアプローチをどうすればよいか
 - ・自主グループの自立化や組織化への支援をどのように行えばよいか
 - ・「公民館とは」という原点に立ち返って研修したい
 - ・現代的課題に対する取組をどう行えばよいか
- ③具体的取組について
 - ・公民館職員の資質向上を図る研修会の開催
 - ・研修を生かした事業の実施
 - ・研修を通じた公民館主事会議の活性化を目指す

公民館の実施している事業や通常の業務は様々であり、抱えている課題もそれぞれ異なるが、どの委員も現状を率直に語り、自分の地区や公民館に対する熱意が感じられる話し合いとなった。

ここで出された意見をもとに、由利本荘市チョコボラ・プロジェクトの事業として具体的に取り組んでいくこととした。

3 実施事業

(1)研修会Ⅰ 「今さらだけど聞いとう！ 公民館の基礎の基礎」

①日 時 平成23年10月21日(金)午後1時30分から午後4時30分

②会 場 由利本荘市市民交流学習センター 第1研修室

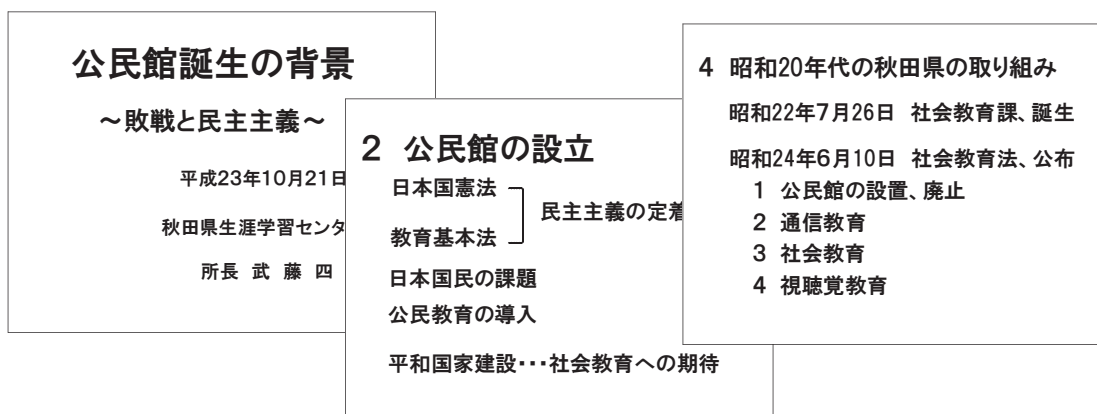
③参加者 公民館7名 生涯学習課3名 県生涯学習センター2名

④内 容

〔講話〕「公民館誕生の背景 ～敗戦と民主主義～」

県生涯学習センター 所長 武 藤 四 郎

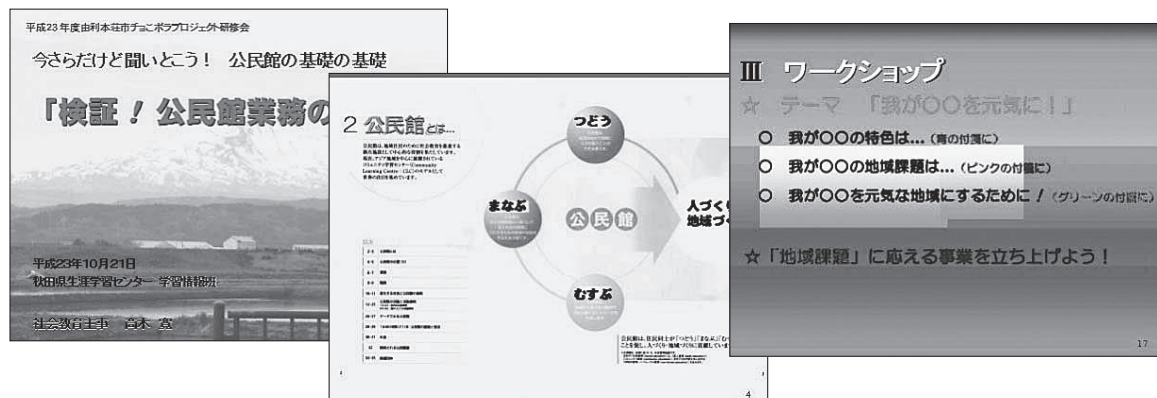
- ・公民館誕生の歴史的背景について
- ・秋田県の取組について
- ・公民館の役割について
- ・現代の情勢について → チョコボラの提案…



〔演習〕「検証！公民館業務の実際」

県生涯学習センター 社会教育主事 高 木 寛

- ・現在の公民館の業務について法や答申等から照らし合わせて振り返る
- ・由利本荘市の中期計画と自公民館の業務内容とを照合する
- ・自地域の特長、課題を明らかにし、課題解決に向けた方策について検討する



(2) 研修会Ⅱ 「みんなで考えよう！ 公民館にできること」

①日 時 平成23年11月10日(木) 午前10時から正午

②会 場 本荘由利産学共同研究センター AV研修室

③参加者 公民館10名 生涯学習課3名 小友小学校長 生涯学習センター1名

④内 容

〔講義〕「これからの公民館について考える」

秋田大学教育文化学部 准教授 原 義彦氏

- ・地域づくりにつながる公民館事業の企画に向けて
- ・先進事例の紹介
- ・地域の発見、再発見事業企画(グループワーク)



(3) 研修会Ⅲ 「地域とともに！ 公民館のめざす道」

①日 時 平成23年11月24日(木) 午後1時30分から午後4時

②会 場 由利本荘市市民交流学習センター 第1研修室

③参加者 公民館10名、生涯学習課3名、小学校長3名

中央教育事務所由利出張所1名 県生涯学習センター1名

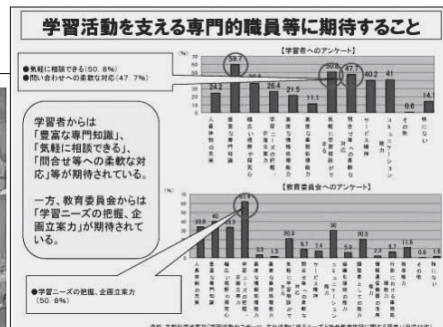
④内 容

〔講話〕「地域と学校と公民館のかかわり方を考える」

仙北市立中川小学校 校長 沢 屋 隆 世 氏

- ・子どもをはぐくむ地域づくりの視点から
- ・中川小学校事例紹介
- ・地域の課題・目標を共有化すること

→ 「学校だけでは子どもは変わらない。地域との関わりが不可欠！」



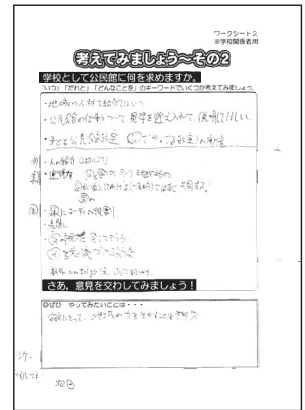
〔演習・協議〕 「地域と学校と公民館のかかわり方を考える」

県教育庁中央教育事務所由利出張所

社会教育主事 鈴木 智 王

・学校、公民館それぞれの立場から話し合う

(互いに何ができるか)



(4) 研修会Ⅳ 「いざ、実践！ 公民館事業実践計画」

- ①期 日 平成23年12月9日(金)午後1時30分から午後4時
- ②会 場 本荘由利産学共同研究センター AV研修室
- ③参加者 公民館9名 生涯学習課3名 小友小学校長
中央教育事務所由利出張所1名 県生涯学習センター1名
- ④内 容

〔演習〕 「研修を生かした事業計画を立てよう」

秋田大学教育文化学部 准教授 原 義 彦 氏

・3グループに分かれ具体的事業計画

・「ウィンターアカデミー in 〇〇」

～学校・公民館別々に行っている書き初め大会を共催、

地域の方や高校生等を交えて交流する

・「親子でカダーレ～子育てサポートくらぶ～」

～新文化施設を会場に4回シリーズで家庭教育について考える。

地域の子育てサークルや団体、関係者等を活用

・「由利本荘市地域自慢コンテスト」

～児童生徒にゆるキャラや料理自慢等を考案してもらい、

全小中学校に設置しているテレビ会議システムを活用して交流する。

(大滝課長より) 「研修の最終回ではない。ここからスタートとしたい！」

平成24年度 生涯学習・社会教育関係事業計画書				
●第2次由利本荘市生涯学習推進・社会教育中期計画における事業の位置づけ				
	基本方針	基本施策	具体的目標	具体的施策
1	生涯学習・社会教育の推進	地域・地域の教育力の向上	家庭教育の推進	子育て講座、支援活動、養育指図等による家庭教育支援
2				
●事業の詳細				
事業名	親子でカダーレ！ ～子育てサポート倶楽部～			
事業の目的 (期待される効果)	講座や体験活動を通して、家庭教育の理解を促す。 また、参加した文化交流カダーレの活用を促進する。			
実施主体	由利本荘市市民協会の協賛			
対象者	親子30組(小学校低学年)			
実施期間・回数	第4回	参加(見込み)	人数	延べ240 人
実施場所	文化交流カダーレ			
●事業の具体的な内容				
具体的な内容	実施日	講師等	その他	
カダーレ(新築)と旧市街の歴史について紹介 カダーレ職員の仕事について紹介 プログラムでの発表	6月4日	市立児童館 カダーレ職員 見込み		
親子でカダーレの命の大切さについての講座	8月10日	市のたけのこ		
親子の料理教室 (ピザ、お菓子作り等)	10月10日	地域ボランティア 地域おこし協力隊	材料費あり	
親子でカダーレ 子育て講座(お母さん講座)	2月4日	子育て支援 子育て支援員		

平成24年度 生涯学習・社会教育関係事業計画書				
●第2次由利本荘市生涯学習推進・社会教育中期計画における事業の位置づけ				
基本方針	基本施策	具体的目標	具体的施策	
1. 地域に根ざした 特徴ある教育の推進	地域力も活用した青少年の 健全育成	学校教育・社会教育の二者的 連携促進	二者的連携等を促進し、積極 的に事業交流と融合を促進	
2.				

●事業の詳細				
事業名	ウィンターアカデミー in 〇〇			
事業の目的 (期待される効果)	子ども達にふるさとを愛着を持ってもらい、 いかに子ども達に地域活動の楽しさを体験してもらおうか			
実施主体	市民の学校、市民の公民館			
対象者	市民の学校の児童			
実施期間・回数	1日	参加(見込み)	人数	207 人
実施場所	市民の学校			

●事業の具体的な内容				
具体的な内容	実施日	講師等	その他	
Ⅰ 開校式(校長あいさつ 他)				
Ⅱ 全学年 運動大会			市民の学校	
① 運動会大会			市民の学校	
② 運動会大会			市民の学校	
③ 運動会大会			市民の学校	
④ カルタ大会			市民の学校	
⑤ 運動会大会			市民の学校	
⑥ 運動会大会			市民の学校	
⑦ 運動会大会			市民の学校	
⑧ 運動会大会			市民の学校	
⑨ 運動会大会			市民の学校	
⑩ 運動会大会			市民の学校	
⑪ 運動会大会			市民の学校	
⑫ 運動会大会			市民の学校	
⑬ 運動会大会			市民の学校	
⑭ 運動会大会			市民の学校	
⑮ 運動会大会			市民の学校	
⑯ 運動会大会			市民の学校	
⑰ 運動会大会			市民の学校	
⑱ 運動会大会			市民の学校	
Ⅲ 閉校式(校長挨拶 他)				

- 3 -

●第2次由利本荘市生涯学習推進・社会教育中期計画における事業の位置づけ				
	基本方針	基本施策	具体的目標	具体的施策
1	地域に根ざした特色ある教育の推進	郷土の歴史・文化・民俗等を活かした地域づくり	生涯学習・社会教育推進体制の充実	学んだ成果を活用できる場の提供の推進
2	地域に根ざした特色ある教育の推進	郷土の歴史・文化・民俗等を活かした地域づくり	学校教育・社会教育の二者連携促進	二者が連携を推進し、積極的な事業交流と融合を促進

●事業の詳細				
事業名	(仮称)3地区地域自慢コンテスト事業 ～ゆるキャラを作ろう～			
事業の目的 (期待される効果)	ゆるキャラを作成し発表することにより、各地区の特色や歴史、文化等を相互に理解し合い交流を促める。			
実施主体	由利本荘市、3地区小学校			
対象者	3地区小学生3、4年生 地区住民			
実施期間・回数	4月～9月 9月10日に発表会	参加(見込み)	100	人
実施場所	各小学校(テレビ会議システムの設置した教室)			

●事業の具体的な内容				
具体的な内容	実施日	講師等	その他	
地域学習、総括発表、発表会、発表 9月10日にプレゼンテーション(発表会) 投票	4～9月頃			

4 第2回由利本荘市チョコボラ・プロジェクト協議会

今回の協議会では、4回の研修を通して計画した新年度の具体的な事業内容について話し合うことにしたため、各公民館館長にも出席していただいた。また、第4回で立案した計画を整理し、グループの代表者に説明資料を作成してもらい協議会に臨んだ。

(1) 概 要

- ①日 時 2月1日(水) 午後1時30分から午後4時
- ②会 場 由利本荘市市民交流学習センター 第1研修室
- ③出席者 公民館14名(うち公民館長5名) 地域住民1名 小友小学校長1名 生涯学習課4名
中央教育事務所由利出張所1名 県生涯学習センター3名

(2) 協議内容

①今年度の研修について

- ・講座企画のスキルが向上した
- ・自己の業務について改めて振り返り確認することができた
- ・立案した計画について、このとおり実施しなければならないのか、共通理解が不十分だったのではないかな

②来年度への事業化の見通しについて

- ・実際に実施するとなれば、予算や準備の面で不安が残る
- ・地域の人材を企画段階から活用して計画を立てた方がよい
- ・高齢者は地域のために役立つことをしたいと思っている、声をかけて欲しい
- ・計画した内容を公民館主事会議が主体となって再検証し、計画をスクラップする可能性までも含めながら具体化に向けて検討していく
- ・本荘地域の公民館主事会議のネットワークを全市的に広げていく

4回の研修を前向きに評価する声が聞かれた一方、計画の実現性について懸念される点や問題点を指摘する等率直な意見も出された。今後に向けて期待のもてる話し合いができた。

5 事業を振り返って

公民館主事会議のにぎわい復活を掲げてスタートした由利本荘市のチョコボラは、公民館主事の積極的な姿勢により充実した研修とすることができた。当初は、研修を生かして年度内に事業を立ち上げられればという思いもあったが、時間的な制約もあり、新年度に向けた具体的計画の作成に切り替えた。年度内の研修成果にこだわって、形だけでも事業を行う方法もあったものの、無理をせずに新年度につなげたことは今後につながりをもたせるという意味でも有効だったのではないだろうか。

「由利本荘市チョコボラ・プロジェクト」は、実際に活躍する公民館主事らの主体性が何よりも重視されるべき内容であったが、若干、当センターと市生涯学習課の主導的な面があったことも否めない。4回の研修の流れの中で、毎回全員が参加できるわけではないことを考慮すれば、1回毎の研修内容を周知することや、所属公民館への伝達を確認することなど、反省すべき点も多く見つかった。ただ、最後の協議会で共通理解が不足している点を包み隠さず話し合えたことは、今後の展開を考えたときに前向きに評価できるものと考えている。

来年度、由利本荘市の各地域や公民館の活性化に向けて、また、公民館主事会議の充実に向けて行われる取組が他市町村のモデルケースとなり得るよう見守っていききたい。